

オーディオ実験室収載

スピーカーアキュライザーの導入(23)

ーアナログ対デジタル(8)ー

1. 始めに

前報(22)に引き続き、アナログ音源とデジタル音源の比較を行ってみます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴方法

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとしますが、ケーブルの接続条件を前報(14)のとおり替えています。

試聴音源はバッハの Goldberg 変奏曲に固定し、アナログ盤、CD、Spotify、放送録画、LiveExtreme 配信録音、STAGE+から選択します。

アナログ盤

Victor LS-2099

ワンダ・ランドウスカ (チェンバロ)

CD

SONY SICC 30037

グレン・グールド (ピアノ)

Pooke's Hoop PCD1712

塚谷水無子 (ピアノ)

Hyperion CDA68146

アンジェラ・ヒューイト (ピアノ)

SAIILINO SR091

ケネス・ワイス (チェンバロ)

Spotify

家喜美子 (チェンバロ)

放送録画

ジャン・ロンドー (チェンバロ)

Live Extreme 配信録音

菊池洋子 (ピアノ)

STAGE+

ヴィルヘルム・ケンプ (ピアノ)

ラン・ラン (ピアノ)

マハン・エスファハニ (チェンバロ)

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

アナログ盤はLP-12、CDはEMT981、SpotifyはPC、放送録画はDMR-UBZ、LiveExtreme配信録音はPC、STAGE+はPC経由で再生します。

ランドウスカのチェンバロ演奏のアナログ盤は、チェンバロの復元に功績のあったランドウスカの演奏でモノラル盤です。ランドウスカの没年は1959年ですので録音はかなり古いものです。モノラル盤で、盤質もよくなく、ナローレンジですが、ゆったりとしたテンポで、楽譜に忠実な演奏のようです。音質的には満足できませんが、いかにも正統派のバッハの演奏のようです。

グールドのピアノ演奏のCDは、1981年の録音です。緩急、抑揚、強弱自在の独特のフレーズでグールド節躍如の演奏です。スローなパッセージでは、グールドのハミングが聴こえます。以前の印象よりグールド節の面白さが味わえるようになっています。

塚谷水無子のピアノ演奏のCDは、ベーゼンドルファーのピアノを使用し、2017年の録音です。ベーゼンドルファーの重厚な音を活かした、落ち着いた演奏が味わえます。

ヒューイットのピアノ演奏のCDは、FAZIOLIによる2015年の録音です。

FAZIOLIの柔らかい音色でタッチもソフトで、Goldberg変奏曲の謂れのとおり眠気を催すような心地よい演奏です。

ワイスのチェンバロ演奏のCDは、演奏会で買い求めてきたもので、2008年のライブ録音と記載されています。音質はCDとしては最上の部類で、演奏はチェンバロの繊細な表現を追求するよりも、力強い演奏で、解釈もオーソドックスであり、演奏会の雰囲気を感じさせます。

ジャン・ロンドーのチェンバロの演奏の放送録画は、演奏会でも聴いています。ライブ収録の録画で収録会場は演奏会とは違いますが、丁寧にじっくり聴かせる演奏でライブ感がリアルです。

家喜美子のチェンバロの演奏のSpotifyは、ロッシーの配信とは思えないほど、クリアでCDに近い音質になっています。

菊池洋子のピアノの演奏のLive Extreme配信からの5.6MHzDSD録音は、ライブストリーミングを楽しむ(48)でも報告していますが、Live Extremeの配信プラットフォームのおかげでスタンウェイの打鍵のアタック感など、ライブのリアル感が再現されています。

ケンプのピアノ演奏のSTAGE+は、録音年代はかなり以前と思われそうですが、音自体はしっかりしています。演奏は、最初のアリアなど、ケンプ流に崩したようなところもあり、他のチェンバロ演奏とは違った趣があります。

ラン・ランのピアノ演奏のSTAGE+は、映像付きの2020年ライブチッヒの聖トーマス教会でのライブ収録です。最新の収録だけあって、教会の豊かな間接音に包ま

れて、柔らかいピアノの響きが聴かれます。いつものラン・ランらしい過度の感情移入も控え目で、淡々と弾きながら、歌うような演奏です。

エスファハニのチェンバロ演奏の STAGE+は、1984 年生まれの若手チェンバロ奏者の 2016 年録音の CD の配信音源のようです。録音が新しいだけあって、透明度の高い、ディテールの再現度も文句のない音で、演奏技量もしっかりしています。

4. まとめ

収録年代と音源の種類と再生ルートが異なる音源が、スピーカーアキュライザー導入以降、一様に音質が向上し、アナログや STAGE+の古い音源もフレッシュな印象で聴けるようになっていきますし、最新の放送録画や LiveExtreme 配信録音や STAGE+の音源もアナログに迫る音質で聴けるようになっていきます。

ピアノ演奏に関しては、スタンウェイ、FAZIOLI、ベーゼンドルファーなどの音の違いもよく分かりますし、一品物の制作であるチェンバロの音の違いもよく分かります。

以上